

## 平成27年度医薬品包装懇話会活動と講演テーマ要旨

☆：医薬品包装懇話会は、年間4回、8講演で開催しております。また、不定期ですが特別企画として、医薬品工場などの見学会を開催する予定であります。また、各例会終了後に、1時間程度の情報交換会を講師及び参加会員で活発な意見交換を実施しております。

☆：医薬品包装懇話会に入会した会員様には、開催日の1か月前くらいに、医薬品包装懇話会ニュースによる開催のご案内と参加申込書を郵送いたします。

☆：是非とも医薬品包装懇話会会員に入会することをお勧めします。

開催日	テーマと講演要旨
第1回幹事会 6月26日(金) Am	平成27年度医薬品包装懇話会の担当幹事、開催日程、テーマ・講師の確認および進捗状況報告 (会員登録数：123名) 出席者：大澤代表幹事、担当幹事(8名)、事務局
第133回 6月26日(金) 出席者数 110名	<b>テーマ1：『医療機関におけるバーコード活用』</b> <b>講師</b> ：国際医療福祉大学熱海病院 鈴木 高弘 氏 医療現場において最も重要なテーマは、医療安全を確保することである。そして近年、医療用医薬品の調剤包装単位へのバーコード表示が実現し、飛躍的に医療安全を向上させることが可能となった。そこで今回、医療現場におけるバーコード等の利活用事例を紹介し、さらには利活用の障壁となる問題点についても議論をした。 担当幹事：落合誠氏(中外製薬株) <b>テーマ2：『医薬品包装への人間工学的アプローチ ～PTPシートや医薬品外箱に着目して～』</b> <b>講師</b> ：芝浦工業大学工学部情報工学科 教授 大倉 典子 氏 見やすくわかりやすい医薬品包装表示や操作しやすい医薬品包装形態について、すなわち医薬品包装のユーザビリティに関して、人間工学的な手法を用いて種々の実験を行い、指針を明確にする研究を行ってきた。今回は、特にPTPシートの表示や医薬品外箱の操作性に着目した研究事例について具体的に紹介した。 担当幹事：浦川英三氏(株旭紙工)
第134回 9月2日(水) 出席者数 114名	<b>テーマ1：『海外と日本の医薬品包装の相違』</b> <b>講師</b> ：中央商工(株) 顧問 久保田 清 氏 医薬品包装では、各地域のヘルスケア事情(患者動態、医療経済、周辺テクノロジーの活用など)に起因する様々な特徴があるが、大きな相違といえば自動認識表示のコンセプトが特記される。各トピックスについて国内外を比較し、「共通・相違」、「先進・後進」、「ユニーク」などの評定を行い、併せてその背景も考察した。 担当幹事：伊藤浩明氏(株タケトモ) <b>テーマ2：『医薬品過誤防止の観点から医薬品の包装・表示を考える』</b> <b>講師</b> ：(公財)がん研究会 がん研有明病院 薬剤部長 濱 敏弘 氏 医療現場に勤務する薬剤師の視点より、特に医薬品過誤防止の観点から現状の医薬品の包装形態や表示の問題点を挙げ、誤認や服用を回避するための医薬品包装・表示を報告した。 担当幹事：滝澤良博氏((一社)日本血液製剤機構)

<p>第135回 11月27日(金) 出席者数 85名</p>	<p><b>テーマ1：『人材育成を視野に入れた教育及び薬物乱用防止教育』</b>  <b>講師：慶応義塾大学薬学部 名誉教授 福島 紀子 氏</b>      医薬品販売の規制緩和によるネット販売の拡大や海外医薬品の個人輸入など、この20年程の医薬品をとりまく環境が大きく変化している。誰でもが簡単に医薬品を手に入れることが可能になったが、誤った使い方をすれば薬物乱用につながる可能性もある。2014年の薬事法改正で、医薬品をよく理解したうえで使用するよう国民の役割が明記された。薬に関する正しい使用法や副作用などの知識と判断力を身につけるための教育(薬育)を低学年から実施することが急務である。これまで、薬科大学を卒業した学生が学校薬剤師になるケースを想定して、薬育ができる人材育成を視野に入れた地域での取組を行ってきた。それらの活動と、小中学校における継続した薬育の取組について報告した。      担当幹事：鶴澤巨樹氏(大正製薬(株))</p> <p><b>テーマ2：『PTP包装の世界市場動向』</b>  <b>講師：ハネウエルジャパン(株) シェアマーケティングスペシャリスト 岩津 宇洸 氏</b>      日米欧三極におけるPTP包装市場について現状と将来予測について紹介する。特に、各市場で使用されている包装材料の内訳と、各市場でPTPを設計するにあたって何を重要視しているのかについて、さらには「Patient Centricity」という日米欧で共通して謳われているコンセプトについて、各市場での実践例も併せて紹介した。      担当幹事：内田陽司郎氏(藤森工業(株))</p>
<p>第136回 2月26日(金) 出席者数87名</p>	<p><b>テーマ1：『医薬品のシリアライゼーション動向並びに設備導入時の注意点について』</b>  <b>講師：(株)マイクロ・テクニカ 取締役 葛生 仁 氏</b>      シリアライゼーションを目的として世界数カ国を訪問し、そこで見てきた内容の発表と中国向けシリアライゼーション設備を日本国内で立ち上げた経験による注意事項の報告をした。      担当幹事：竹本一哉氏(CKD(株))</p> <p><b>テーマ2：『認知症高齢者の服薬支援とその実態』</b>  <b>講師：メディスンショップ 蘇我薬局 管理薬剤師 雑賀 匡史 氏</b>      認知症高齢者数が2025年には700万人を超えると予想されている昨今、在宅では独居暮らしや老老介護をされている認知症高齢者が多く存在している。      認知症高齢者が抱えている服薬の問題点、拒薬の実態、薬剤師による服薬支援方法について、在宅訪問を行う薬剤師から課題と解決策を紹介した。      担当幹事：大場直美氏(ファイザー(株))</p>
<p>第2回幹事会 2月26日(金) Am</p>	<p>平成27年度活動実績報告、担当幹事の変更、平成28年度活動方針、開催日程、テーマ・講師の検討  <b>平成28年度例会開催予定日：6/24(金)、9/2(金)、11/25(金)、2/24(金)</b>      特別企画として、会員様限定で医薬品工場見学開催予定を検討しております。      出席者：大澤代表幹事、新旧担当幹事(9名)、事務局</p>